

# JAL2030 サステナブルチャーターフライト



省燃費機材のエアバスA350型機で沖縄へ。機内食はサステナビリティに配慮。

代替航空燃料SAFを積極使用。現地ツアーではEVバスを採用。機用品リサイクルにも努めました。

JAL2030が  
お客さまと  
目指すもの

## CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロ

SAFの積極利用と運航の工夫、JALカーボンオフセット

## 限られた資源の有効利用

脱プラ推進、機内食の事前キャンセル

## D&I推進

多様なバックグラウンドをもつ客室乗務員

## アクセシビリティの向上

機内での手話表現、車いす対応

## 地域活性化

現地ツアーと沖縄基金への寄付

これからの空の旅を  
誇りあるものに

JALグループは、2050年にCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロを目指すなど、すべてのフライトをサステナブルなものとし、空の旅を誇らしい価値に変えていくための取り組みを進めています。そのモデルフライトとして、昨年11月に『JAL2030 サステナブルチャーターフライト』を実施しました。旅先は「SDGs 未来都市」に選定されている沖縄県。CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロで東京（羽田）から沖縄（那覇）へ向かい、ナビゲーターと共にサステナビリティについて見て・学んで・体験していただく空の旅に、およそ320名のお客さまをお迎えしました。

サステナブルな未来のために、JALグループが取り組むべき課題とは？ まずわれわれは、「CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロ」「限ら

れた資源の有効利用」「D&I推進」「アクセシビリティの向上」「地域活性化」という五つの柱を掲げました。これに照らし合わせ、サステナブルフライトにおける整備、運航、機内サービスの内容、そして出発前や到着地沖縄での滞在中にお客さまと共に何ができるかを、とことん考え抜いたのです。

それでは、サステナブルフライトの一部をご紹介します。機内食は、サステナビリティに配慮したオリジナル。ファーストクラスでは、狐野扶実子シェフ協力の下、「SDGs（未来の食材50のリストからの「皿」）」として、環境や人の健康に配慮されたメニューを提供。クラスJと普通席のお客さまには、環境負荷が低い大豆ミートを使用したハンバーガーをお召し上がりいただきました。また、機内食の事前キャンセルサービスもご案内し、食品廃棄の削減につ

いてお客さまに知っていただく機会としました。温かいお飲み物を楽しまれたお客さまには、紙コップの蓋とマドラーが紙製になったこともお付けいただきましたことでしょうか。ヘッドホンなどの機内サービス品も、リユース可能な物や環境に配慮した素材でお届けしました。

誰もが活躍し、  
旅を楽しめるように

また、障がいのある社員の才能や能力を活かす新たな取り組みとして、機内アナウンスの手話表現、お客さまと手話によるコミュニケーションなど、キャビンポートスタッフとしてサービスを実施しました。多様なバックグラウンドをもつ客室乗務員が機内でもてなしし、その男女比は半々。空港では、ア

クセシビリティに関する社内資格保持者を配置し、車いすをご利用のお客さまにも安心してご参加いただけるよう努めました。沖縄到着後は、EVバスで巡るやんばるの森ネイチャーガイドツアーや、沖縄の歴史と文化を学ぶ首里城ツアーなどのオプションも。お土産は、沖縄産サトウキビの搾りかすを原料としたサステナブルなタンブラーです。なお、沖縄県ではエシカルな新しい旅を特設サイトで紹介しています。



手話表現を体験いただいた  
宮坂七海選手  
(クレー射撃)

「ろう者の機内スタッフの手話のおかげでリアルタイムに情報を得ることができました。ろう者の私にとって当たり前のことではないので、空の旅を共にする一員と感じられ、嬉しくなりました。この取り組みが広がっていくことを、心から応援しています」

たのしい あたらしい そしてやさしい沖縄のエシカルトラベルへ

沖縄県・(一財)沖縄観光コンベンションビューローでは、「おきなわみらいへつなぐ旅」として人々の暮らしや自然にとってよいものを選びながら新しい発見を楽しむ「エシカルトラベル」を、「食」「遊」「娯」のカテゴリで紹介しています。



今回のテーマに該当する目標

8ページの「みんなで行こう、サステナブルな未来へ。」もご覧ください。

